

令和6年 5年生

絆～きずな～新聞

仲間と過ごした自然教室

キャンドルファイヤー、登山、BBQ、星空観察…
みんなでやるから楽しい！

6月12日～14日の2泊3日。ハケ岳にある川崎市少年自然の家で、5年生の子どもたちは、寝食を共にしながら、大自然の中で、様々な活動を行いました。

1日目の朝、大きな荷物を抱え、校庭に続々と集まる子どもたち。そわそわと落ち着かず、これから始まる自然教室に期待と不安を抱いている様子を感じられました。保護者のみなさんや学校の先生たちに見送られ、自然教室が始まりました。バスの中では、酔わないように眠ろうとしている子、しおり片手に友達と話している子、映画に夢中になっている子など三者三様。渋滞もなく、あっという間に現地に到着しました。

1日目のメインイベントは、キャンドルファイヤーです。真ん中のキャンドルを囲むように、学年全員で大きな輪を作り、セレモニーファイヤーの儀式を行いました。火の神に扮した校長先生から、火を授かった火の子（実行委員）がキャンドルに、「責任」「協力」「仲間」の3つの火を灯します。緩やかに揺れる炎を眺めながら、『燃えろよ燃えろ』を歌いました。そして、各クラスによるスタンプが始まりました。クイズ、ダンス、劇など嗜好を凝らした各クラスの発表に最高の盛り上がりを見せました。締め括りは、『コスモス』の合唱。きれいな歌声がホールに響き渡ります。みんなの心が1つになった瞬間でした。



2日目は、登山・BBQ・星空観察と盛りだくさん！標高約1400mの鼻戸屋登山では、グループごとに頂上を目指しました。スタートから道に迷ってしまうグループもありましたが、地図を片手に「がんばれ」と声をかけ合いながら、参加



した全員が登頂することができました。「うわあ」と思わず声が出てしまうほど、頂上からの眺めは最高でした。「苦しい思いをして登ってきたかいがあった」と多くの子が話していました。下山後は、休憩を兼ねて絵葉書タイム。木漏れ日を浴びながら、穏やかな時間が流れます。前日まで川崎市にいたのが嘘のような時を過ごしていた子どもたちでした。



そして、バーベキューが始まりました。火おこし、食材、道具の3つの係に分かれ、それぞれが準備に取り掛かります。一人一人が自分の役割をしっかりと果たし、どのグループも美味しそうにお肉をほおばっていました。「ご飯を作るのってこんなに大変だったんだ」「自分が焼いたお肉を美味しいと言って食べてもらえるのってすごくうれしい」など、親の気持ちを感じている子もいました。



お風呂に入り、あつという間に暗くなった夜空。天井が大きく開くアストロハウスという施設で、星空観察です。自然の家のスタッフの解説を頼りに、雲の切れ間から覗く星を探しました。満天の星空とまではいきませんでした。望遠鏡越しに子どもたちの顔が輝いて見えるほどの月明かりが印象的でした。

3日目は、荷物整理や掃除で慌ただしく時間が過ぎ、牛乳パックを燃やして作るカートンドッグを昼ごはんを食べました。学年やクラスで写真撮影をした後、バスに乗り込み、川崎へ帰ります。学校へ着くと出発と同じようにたくさんの方が出迎えてくれました。

3日間の自然教室。子どもたちの心にはどんなものが残ったのでしょうか。後日、提出されたしおりの感想には、自分ができたこと、友達と過ごした思い出などがたくさん書いてありました。「人と共に生きる」とは、どういうことなのか。この経験がこれからの学校生活で生きて、お互いを認め合い、支え合える5年生になっていくことを願うばかりです。そして、このような自然教室が行えたことを感謝する心を忘れないでほしいと思います。

